

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業

地域で支え合う子育て支援について—やんちゃんことの連携を通して—

黒木 晶 (児童教育学科)

はじめに

黒木ゼミには大学卒業後、保育職に就くことを目指す学生が所属している。学生は、これまでの授業での学びと、保育実習経験から、理論と実践の結びつきについて気づき、その大切さを実感している。また、知識と経験を擦り合わせながらさらに学びを深めている段階である。子育て支援については座学での学びが主で、保護者と直接的に関わる実体験としての学びはほとんど得られていない。そこで、地域で子育てを支えている「やんちゃんこ」に協力いただき、学生が地域の実態に応じた子育て支援について学ぶことを目的として活動を行った。

当初の計画では、4月より学生同士で子育て支援に関して意見を出し合い、フィールド見学や実践等行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で対面授業ができず、またフィールドに行くことが難しかったため、本格的な活動開始は秋以降になった。

活動内容及び実績

〈協働させていただいた市民活動団体〉

特定非営利活動法人 やんちゃんこ

〈活動時期〉

2020年10月～12月

〈場所・内容〉

- ・わいわいステーション 見学・参加
- ・虹色カフェ 見学
- ・子ども通所サービスにじいろ 見学・参加
- ・塚口幼稚園 子育てサークル「つかぐち

kids」見学・参加(2回参加)

- ・子育て領域講演会 (オンライン開催)  
スタッフとして参加

虹色カフェにて

虹色カフェは、子育てのことで悩んでいるお母さん、お父さん、先生や子育て支援に関わっている方々が気軽に集い、医師や児童心理司など専門家や学校関係者、また当事者による体験談などの話を聞きながら、お互いの悩みを話したり相談できる場所である。濱田先生が講師をされた回に参加した後に、地域の保護者の現状や子育て支援のあり方についてお話いただいた。

塚口幼稚園 子育てサークル「つかぐちkids」にて

つかぐちkidsは、未就園の子ども同士が関わりを持つ場である。

学生は、子どもとの関わりや環境構成など、事前に学びたい視点について考えた上で参加した。

**1 回目の参加**

10:00-12:00の時間で、室内遊び、外遊び、降園までの子ども達と関わった。

遊びの援助の他、排泄や手洗い、室内から外への移行時の靴の着脱等、必要に応じてサポートを行った。

**2 回目の参加**

活動時間は、1回目と同様の10:00-12:00であった。

朝の挨拶後に、手遊びと絵本の読み聞かせの実践を行った。絵本は、1回目に参加

した時の子ども達の様子をみて、興味を示しそうなものを選んだ。また、子ども達全体に見えやすい大型絵本にした。

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 手遊び      | 「とんとんとんひげじいさん」のアンパンマンバージョン |
| 絵本の読み聞かせ | おおきなかぶ                     |

手遊びの配慮点：子ども達に聞こえる声の大きさと、子どもの目を見ながら笑顔で行うように心がけ、子ども達が興味をもつように意識した。

絵本の読み聞かせの配慮点：絵本の内容で子どもが興味をもったところをゆっくり読んで繰り返すことで、お話や言葉の面白さを感じられるようにした。



子ども達が降園した後に、濱田先生に指導いただきながら活動の振り返りを行った。学生自身、気づいたことや考えたことを言葉にすることで考えを整理する時間となった。子どもの姿を共有し、それぞれがどのような考えを持っているか知る機会にもなった。さらに、学生が発信したことに濱田先生が意味づけしてくださることで、次への意欲につながっている様子がみられた。

### 子育て領域講演会（オンライン開催）での具体的な活動内容

#### ① 学生について

やんちゃん主催の子育て領域講演会にスタッフとして参加させていただいた。テーマは、「発達特性の理解と関わりについて」

であり、兵庫県立尼崎総合医療センター・小児科医長の石原 剛広先生が講師を務めた。

学生は会場準備から片付けまで行った。また、やんちゃんこの職員の方とペアでそれぞれの役割を担う経験をした。役割は、講師の誘導や司会の補助、写真撮影等であ



る。

講演会終了後には、石原先生と参加したスタッフ全体でのシェアリングを行った。感想を伝えたりや質問したりする中で、石原先生がアドバイスをくださり、子どもと



の関わりについて理解が深まるとともに、学生の意欲が向上した。

#### ② 講演会の参加者について

講演会はオンラインで開催し、約 400 名の参加があった。講演会後に講演会に関するアンケートの協力を依頼し、31 名の回答が得られた。参加者は、職場や子育て、学習のために必要とする等の理由で参加されていた。また、講師が石原先生だからとい

う理由での参加もあった。講演会の満足度は高く、「発達特性のある子どもだけでなく、すべての子ども、親にとっても参考になった」や、「特性に対する捉え方が変わった」という意見を得た。これらのことから、今回のテーマ及び講演内容は、子育てに悩みを抱えている保護者の方、支援する立場にある方など、幅広い方々の助けになるものであったことが分かった。

### まとめ

活動する中で、学生が学んだことについて以下に記す。

#### 活動全体を通しての学び

- ・子ども達と関わる時に、発達段階に合わせた支援や援助をしていくことが大切である。(特性を持った子ども達への支援も同じ)
- ・保護者の悩みやお話の受け止め方は様々あり、保護者の気持ちに寄り添うことが“理解”に繋がる。
- ・保護者の不安や悩みを少しでも解消できるように地域にも目を向けることが大切である。(地域に設置されている支援施設やサービスなど)

#### 講演会を通しての学び

- ・子どもの特性に合わせたサポート・見守りをしていくことが必要である。
- ・自分の持っている特性の概念で子どもを判断するのではなく、考えの視点を变えて“特性”を見ることも大切である。しなやかな思考に変える。
- ・裏方の仕事では、臨機応変に対応・様々なトラブルを想定しておくこと・冷静に且つ見ている人への配慮(声掛け・対応など)

をすることが大切である。

これらのことを踏まえて、今後の課題として学生自身が自分たちにできることを考えた。

- ・地域の子育て支援サービスを調べて大学内の掲示板に貼りだす。
- ・子育て支援施設に足を運び、その特性の子どもに合わせた関わりをしていく。

このように、学生自身の視野が広がるとともに、活動を通して自分たちにできる新たな課題が見つかった。

発表は、「まちづくり解剖学」で行う予定であったが、コロナ禍のため、実施できなかった。そのため、学内のラーニングコモンズ(まちの相談室)に、学生がまとめた活動報告を掲示する形をとった。

### 謝辞

特定非営利活動法人やんちゃんこ代表理事の濱田英世先生には、実践の場を提供いただきました。また、子育て領域講演会やその他の多くの場面で学生にご指導いただきました。心より御礼申し上げます。

やんちゃんこの職員のみなさま、参加されたみなさま、そして講演会講師である、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科医長の石原剛広先生に心より感謝申し上げます。

最後に、「尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業」に携わるみなさまに厚く御礼申し上げます。